

出穂 60 日目の「たちすずか」 WSC は 泌乳中後期の乳牛用飼料に 23%混合できる

水田を活用した飼料増産の品目として稲ホールクロップサイレージ（以下、WSC）の利用が進んでいるが、秋雨や台風等による収穫遅延を理由とした品質低下や収量低下が問題になっている。中極短穂型飼料稲品種「たちすずか」は黄熟期以降の水分低下が穏やかで収穫期間が比較的長い特徴があるが、収穫遅延による飼料価値や乳生産への影響は不明な部分が多い。そこで、三重県畜産研究所は、収穫が遅延した「たちすずか」WSC の乳牛への利用性を明らかにしたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 出穂 30 日（適期）と 60 日（遅期）に収穫した「たちすずか」を供試し、適期収穫「たちすずか」を飼料乾物中 10%と輸入イネ科牧草を混合した TMR（適期・普通区）、適期収穫「たちすずか」を 23%混合した TMR（適期・多給区）、および出穂 60 日後収穫「たちすずか」を 23%混合した TMR(遅期・多給区)をそれぞれ細断型ロールベールで発酵 TMR に調製して泌乳中後期の 6 頭を用いた飼養試験を実施しました。
2. 遅期・多給区の乾物摂取量は、適期・普通区や適期・多給区と差がなく、体重、ボディコンディションスコア（BCS）、乳量、乳成分および咀嚼行動に影響を及ぼしませんでした。
3. 出穂 60 日の「たちすずか」WSC は、飼料乾物中 23%混合給与しても、血液性状、第一胃内容液性状に問題がないことから、適期収穫「たちすずか」WSC や輸入イネ科牧草の代替として泌乳中後期の乳牛に同等程度利用できます。



図1 出穂30日目のたちすずか



図2 出穂60日目のたちすずか



図3 給与試験状況

☆活用面での留意点

1. 本成果は泌乳中後期の乳牛に用いたものであり、泌乳前期の乳牛での飼養試験は実施していません。したがって、周産期を含めた通年給与時の影響は今後の課題です。
2. なお、詳しくは三重県畜産研究所・大家畜研究課 林 道明（TEL0598-42-2029）にお問い合わせ下さい。